みんぱく
Information

みんぱくフォーラム2014
東アジア展示があたらしくなりました!!
朝鮮半島の文化・中国地域の文化・日本の文化「沖縄のくらし」「多みんぞくニホン」の展示が新しくなってオープンしました!

■関連イベント

◆みんぱく映画会
「台湾映画鑑賞会――映画から台湾を知る」
台湾社会の情況や歴史経験を、台湾映画のダイナミックで繊細な映像を通してお楽しみ下さい。
時間　13時30分～16時30分（13時開場）
会場　本館講堂（定員450名）
6月8日（日）
「童年往事　時の流れ」
経済成長にともなう台湾化の中の外省人の経験
6月14日（土）
「海角七号　君想う、国境の南」
現代の台湾社会の温度を感じさせる世代間関係
※申込不要、参加無料（要展示観覧券）
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布
※当日11時30分より中国地域の文化展示場にて展示解説あり

◆展示場クイズ「みんぱQ」
朝鮮半島の文化編　6月12日（木）～7月15日（火）

企画展
「みんぱくおもちゃ博覧会――大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』」
会期　8月5日（火）まで
国内有数の玩具コレクションの中から4つのテーマに沿って展示します。日本の玩具史の概要を知ることができます。体験コーナーには、すごろく、おはじき、ぬり絵、メンコなど楽しい遊び道具がいっぱいです。
※本企画展の期間中、大阪府立大型児童館ビッグバン（大阪府堺市）と日本玩具博物館（兵庫県姫路市）で相互割引を実施しています。

音楽の祭日2014-inみんぱく
1982年にフランスで、夏至の日にみんなで音楽を楽しむ「音楽の祭典」がはじまりました。みんぱくでも、世界のさまざまな楽器を使って「音楽の祭日」を祝います。
日時　6月22日（日）10時25分～16時35分
会場　特別展示館・本館エントランスホール
※申込不要、参加無料（当日は無料観覧日です）
お問い合わせ先
情報企画課　音楽の祭日担当
電話　06・6878・8532

公開フォーラム
「和食は誰のものか?」
和食とはなにか、無形文化遺産とはなにかという基本的な点をふまえたうえで、われわれがどのように行動していけばよいかを話しあいます。
日時　6月28日（土）13時～16時30分（12時30分開場）
会場　本館講堂（定員450名）
※申込不要、参加無料

みんぱく映画会
「かぞくのくに」
国境や国籍のありかた、家族のかたち、日本の多文化性のゆくえ、越境が人の心にもたらす影響について、考えてみましょう。
日時　7月12日（土）13時30分～16時（13時開場）
会場　本館講堂（定員450名）
申込締切　6月20日（金）
※要事前申込、参加無料（要展示観覧券）
※当日11時30分より日本の文化展示場にて展示解説あり。

研究公演
「アリラン峠を越えていく――在日コリアン音楽の今」
在日コリアンが奏でる音楽には、マイノリティとしての体験や歴史の記憶が投影されています。朝鮮半島の伝統音楽をベースにした「音楽の今」をお楽しみください。
日時　7月20日（日）14時～16時30分（13時30分開場）
会場　本館講堂（定員450名）
申込締切　6月30日（月）
※要事前申込、参加無料（要展示観覧券）

みんぱく創設40周年記念 カレッジシアター
「喜味家たまごの地球探究紀行」
研究者が撮影した世界各地の記録映像と研究者によるレクチャー。近鉄百貨店ならではの美味しいお弁当付き。
時間　11時～13時30分
会場　あべのハルカス近鉄本館「スペース9」
主催　産経新聞社
特別協力　国立民族学博物館、千里文化財団
※要事前申込（申込締切は各回開催日の1週間前）、参加費　各回4940円
6月11日（水）寺田吉孝（本館 教授）
人生は音楽の調べとともに――移り変わるインドの結婚式
6月18日（水）横山廣子（本館 准教授）
南詔大理国の末裔、ペー族の結婚式
6月25日（水）三尾稔（本館 准教授）
家族をつなぐ 社会をつなぐ――インドの婚礼
お申し込み・お問い合わせ先
ウェーブ産経カレッジシアター係
電話　06・6633・9087

●研究公演、映画会等参加方法変更のお知らせ
4月から、研究公演、みんぱく映画会、みんぱくワールドシネマにご参加いただく際、当館の展示観覧券のご提示をお願いすることといたしました。
なお、みんぱくフリーパス、国立民族学博物館友の会会員証、キャンパスメンバーズの学生証等をお持ちの方は、ご提示いただくと、観覧券は不要です。

●無料観覧日のお知らせ
6月22日（日）は、本館展示を無料で観覧いただけます。ただし自然文化園を通行される場合は、入園料が必要です。
※各イベントについてくわしくはホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時（土日祝を除く）です。

国立民族学博物館創設40周年記念
日本文化人類学会50周年記念
「イメージの力――国立民族学博物館コレクションにさぐる」
迫りくる力、驚きとの出会い、このアートを体験しよう
会期　6月9日（月）まで
会場　国立新美術館企画展示室2E（東京）

訃報　周達生名誉教授
本館名誉教授の周達生（しゅうたつお）先生（八二歳）が本年五月四日逝去されました。みんぱく創設後間もない一九七九年、はじめての外国人研究員として着任され、一九九五年教授として定年退官されるまで、みんぱくの中国研究や中国文化展示の基盤作りに努められました。中国食文化の紹介者として知られたほか、民族動物学を提唱し、民族ごとにみられる動物と人間の特殊なかかわりあいに視点をおいた多くの著作があります。謹んでお悔やみ申し上げます。

みんぱくホームページ　http://www.minpaku.ac.jp/　　みんぱくフェイスブック　http://www.facebook.com/MINPAKU.official
みんぱくツイッター　http://twitter.com/MINPAKUofficial　　電話でのお問い合わせ　06-6878-8560（本館 広報係）

みんぱくゼミナール

時間　13時30分～15時（13時開場）
会場　本館講堂
定員　450名（当日先着順）
参加費　無料（展示をご覧になる方は観覧料が必要です）

第433回　6月21日（土）
現在進行形の海外移民――韓国を去りゆく人びとの胸のうち
講師　太田心平（本館 准教授）

2013年にソウルで開かれた「移民博覧会」（金桂淵撮影）

朝鮮半島の外に暮らすコリアンは、いまや750万人以上。しかし、韓国において移民という行為は、けっして昔の話などではありません。今日でも、毎年、人口の0・3％以上もの人びとが、外国へと移民していきます。人びとはどうして韓国を去ろうとするのか、近年の調査研究をもとにお話しします。

第434回　7月19日（土）
泡盛今昔物語
講師　日高真吾（本館 准教授）
萩尾俊章（沖縄県教育庁文化財課 副参事兼班長）

酒造組合連合会の泡盛広報写真（昭和30年代）

泡盛は琉球王府の管理の下、首里の指定酒屋で生産されていた蒸留酒。かつて首里城には数百年ものの古酒が伝わり、外交や接待の際に振る舞われました。18世紀前半には一般にも広まりをみせ、今も人気を博しています。ここでは、泡盛の今昔を紹介しながら、沖縄の歴史に触れてみたいと思います。

みんぱくウィークエンド・サロン
研究者と話そう

会場　本館ナビひろば
時間　14時30分～15時30分
※申込不要、参加無料（要展示観覧券）
本館の研究者が来館された皆様の前に登場します!「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。どんどん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

6月1日（日）
話者　河合洋尚（本館 助教）
話題　華僑の移住と暮らし――ベトナム
6月15日（日）
話者　太田心平（本館 准教授）
話題　韓国文化の変わった点と変わらない点
6月29日（日）
話者　日高真吾（本館 准教授）
話題　時代玩具コレクションから見る日本の世相史

刊行物紹介

■武内房司、塚田誠之 編著
『中国の民族文化資源――南部地域の分析から』
風響社　5,000円（税抜）
文化資源という概念を切り口に民族文化の諸事象について、それらを生み出す諸主体との関係性にも注目して分析することで、現代中国の民族文化の見直しを試みる。

■杉本良男 編著
『キリスト教文明とナショナリズム――人類学的比較研究』
風響社　5,000円（税抜）
「文明の衝突」の根源に迫る。非ヨーロッパ世界における「キリスト教文明」による「近代化」の歴史過程とその帰結について検討、その功罪を人類学的視点から見直す。

友の会

国立民族学博物館友の会　電話 06-6877-8893（9時～17時、土日祝を除く）　FAX 06-6878-3716
http://www.senri-f.or.jp/　　e-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会講演会（大阪）
会場　本館第5セミナー室
定員　96名（当日先着順、会員証提示）
第433回　7月5日（土）14時～15時
【新展示関連】
ウチナンチューと教育
講師　日高真吾（本館 准教授）
呉屋淳子（本館 機関研究員）
新しくなった日本の文化展示場の「沖縄のくらし」では、多種多様な沖縄の文化を「シマ」、「町」、「海」、「野山」、「戦後」の5つの観点から展示しています。本講演では、このたびオープンした沖縄のくらしの展示内容についてお話ししたのち、戦後沖縄の教育事情について紹介したいと思います。さまざまな歴史的転換期を経験してきた沖縄で、教育が担ってきた役割をみなさんと一緒に考えます。
※講演会終了後、1時間程度の見学会を予定しています。
第434回　8月2日（土）14時～15時
【新展示関連】
植民地期に海を渡った日本の食
講師　朝倉敏夫（本館 教授）

東京講演会
会場　モンベル渋谷店5Fサロン
定員　60名（要申込）※一般の方も参加可能です。
第109回　6月28日（土）14時～15時
梅棹忠夫のモンゴル調査をたどる
講師　小長谷有紀（人間文化研究機構 理事、本館 教授）
梅棹忠夫にとってモンゴル研究は格別な意味を持っていました。残された記録を整理する楽しさ、その調査ルートを実際にたどった旅の途上での出来事についておはなしします。当日はフィールドノートのレプリカもお持ちします。
※講演会終了後、講師をまじえた1時間程度の懇談会をおこないます。

第84回民族学研修の旅
梅棹忠夫のモンゴル調査をたどる旅――中国内モンゴルの草原と史跡をゆく
9月8日（月）～14日（日）　7日間
※旅の詳細は「友の会」までお尋ねください。

※国立民族学博物館ミュージアム・ショップの記事は、表紙うらに移りました。